



2026年3月期
通期決算説明資料

株式会社fonfun (東証スタンダード:2323)

2026年5月15日

株式会社 fonfun

1 2026年3月期 通期業績

2 2027年3月期 業績予想

3 M&A戦略 DXロールアップの進捗

4 会社情報

新中期経営計画
プロジェクトフェニックス

2026年3月期

DXを中核とするテックカンパニーへ

組織

エンジニア数

100人

財務

時価総額

100億円

事業・投資

新規の中核事業の創出

連結売上 20億円
EBITDA 4億円

2026年3月期 連結売上高20億円、EBITDA4億円を達成

26年3月期業績(実績)

売上高

2,111 百万円 対前期比率 **166.4%**

調整後営業利益
(EBITDA)

453 百万円 対前期比率 **168.9%**

営業利益

242 百万円 対前期比率 **161.9%**

27年3月期業績(予想)

売上高

3,599 百万円 対前期比率 **170.5%**

調整後営業利益
(EBITDA)

721 百万円 対前期比率 **159.0%**

営業利益

472 百万円 対前期比率 **195.1%**

26年3月期に実施したM&A

体制変更後、累計**11**件のM&A
26年3月に実行したM&Aは**5**件

 World in Freelance

 MICROWAVE
DIGITAL

 M&A DX

 5く診
オンライン診療サービス

 YNP

株主還元・流動性向上施策

株式分割実施

1 株 → **3** 株

※26年1月30日効力発生済み

新中期経営計画「プロジェクトフェニックス」の全目標を達成

2026年3月期 目標

DXを中核とするテックカンパニーへ

組織

エンジニア数

100人

M&A実行により
100名達成！

財務

時価総額

100億円

2026年1月30日
100億円到達！

事業・投資

新規の中核事業の創出

連結売上 20億円

EBITDA 4億円

連結業績
収益達成

2026年“fonfun”は再生から持続的成長のステージへ



代表取締役社長
水口 翼

■ 新中期経営計画の全目標を完遂

約3年前、スタンダード市場の上場維持基準適合という大きな課題に直面していたfonfunを再生すべくTOBを実行し、2026年3月期を最終年度とする新中期経営計画を策定しました。以来、累計約10件のM&Aを戦略的に遂行し、市場からも高い評価をいただいた結果、「連結売上高20億円」「EBITDA4億円」「エンジニア100名」「時価総額100億円」という全ての経営目標を、計画通り達成することができました。

■ 創業来最高益の更新と組織基盤の拡充

収益構造においては、既存事業の再編とM&Aを通じ、ストック・リカーリング型(継続課金)モデルへの転換を徹底しました。あわせて業務・利益改善を継続した結果、26年3月期は営業・経常・当期純利益の全ての指標において、1997年の創業以来、過去最高益を達成しました。また、再生着手時に30名だった組織も、現在は連結約300名体制へと拡大し、当社の飛躍を支える強固な体制を構築しています。

■ プロジェクトフェニックス 次なる飛躍へ

社名の由来である「鳳凰(フェニックス)」のように、上場企業としての再起を期した再生プロジェクトは、第一フェーズを終え、持続的な「成長」を描く第二のステージへと歩みを進めます。さらなる高みを目指すfonfunの飛躍に、ぜひご期待ください。

2026年5月25日(月) 第二次中期経営計画の発表を予定しています

2026年3月期 通期業績

- 1 2026年3月期 通期業績
- 2 2027年3月期 業績予想
- 3 M&A戦略 DXロールアップの進捗
- 4 会社情報

営業利益、経常利益、当期純利益、調整後営業利益(EBITDA)で 創業来最高を更新

売上高 2,111 百万円	調整後営業利益(EBITDA) 453 百万円	営業利益 242 百万円	経常利益 271 百万円	親会社株主に帰属する 当期純利益 424 百万円
対前期比率 166.4%	対前期比率 168.9%	対前期比率 161.9%	対前期比率 165.6%	対前期比率 250.8%

※ 当社は、当連結会計年度より連結財務諸表を作成しております。そのため、前連結事業年度との比較分析は行っておりません。

※ 参考情報として、一部前年同期の提出会社の個別の財務諸表との比較を記載しております。

事業面

クラウドソリューション(SaaS・プロダクト事業)、DXソリューション(開発・技術派遣事業)、
両セグメントともにM&Aにより事業規模の拡充。買収後の統合プロセスを推進中。

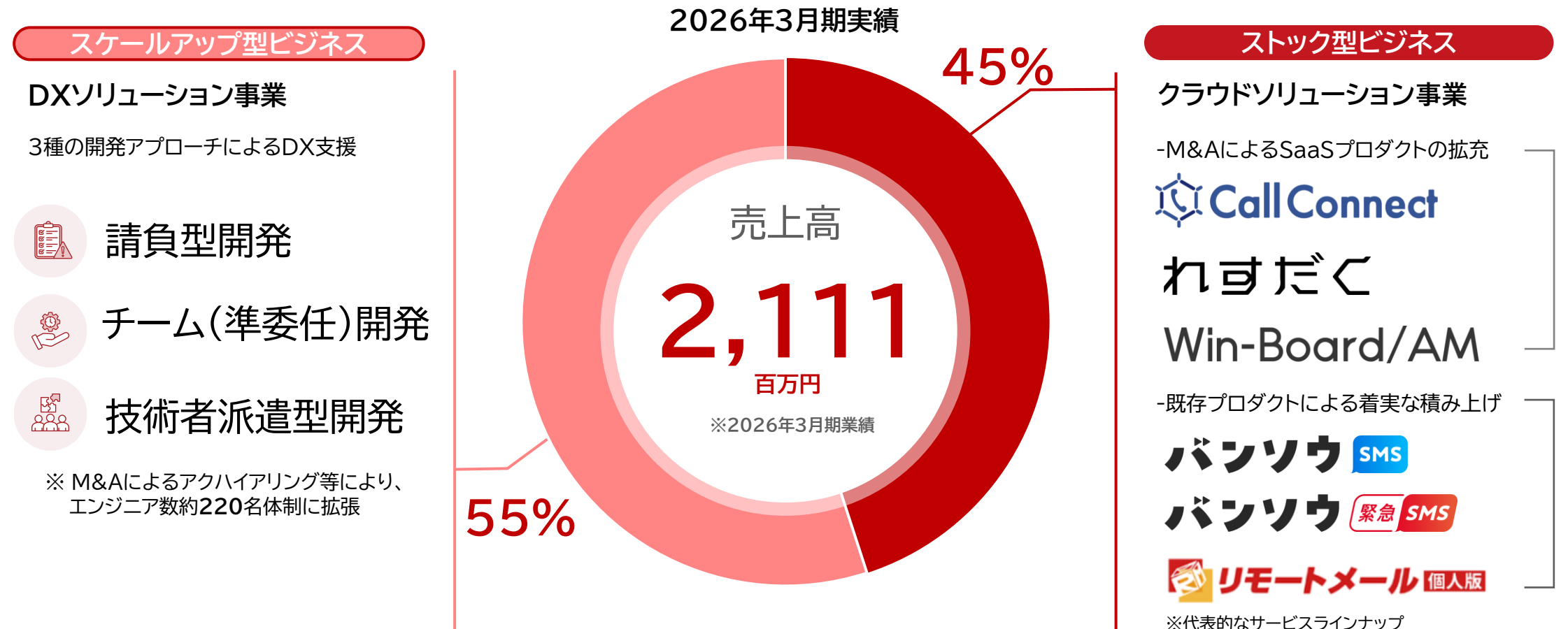
財務面

純資産は前事業年度末より452百万円増加
積極投資をしながらも自己資本比率40.7%の安定した財務基盤

※ 調整後営業利益(EBITDA) = 営業利益 + のれん償却費 + 顧客関連資産償却費 + 減価償却費 + 株式報酬費用

事業ポートフォリオ(2つのセグメント)

事業ポートフォリオがDX企業へと大きく変化 ストック性の高いクラウド事業とDXソリューション事業のバランスのとれた構成



26年3月期に5件のM&Aを実行、業績は大きく成長

(単位:百万円)	24年3月期 単体実績	25年3月期 単体実績	26年3月期 連結実績	対前期比率
売上高	699	1,268	2,111	166.4%
売上総利益	407	590	832	141.0%
販売管理費	332	440	590	133.9%
調整後営業利益(EBITDA)	121	268	453	161.9%
営業利益	74	149	242	165.6%
経常利益	92	163	271	250.8%
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	68	169	424	168.9%
EPS	3.40円	8.21円	20.22円	246.3%
ROE	11.7%	21.8%	31.8%	-

※ 調整後営業利益(EBITDA) = 営業利益 + のれん償却費 + 顧客関連資産償却費 + 減価償却費 + 株式報酬費用 ROE = 当期純利益 / 株主資本

※ 繰延税金資産の計上: 当社の2026年3月期及び今後の業績見通し等を勘案し、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討し、2026年3月期に繰延税金資産を218百万円計上し、その結果、通期で142百万円が法人税等調整額(益)として計上され、当期純利益の増加要因となりました。

※ 2024年1月に付与したストックオプションの行使条件の達成確率に基づいて、2026年3月期において株式報酬費用 55百万円 を計上しております。

※ 2025年2月に1株→2株の、2026年1月に1株→3株の株式分割を行っています。2024年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定してEPSを算定しています。

2026年3月期 通期業績 貸借対照表(3期推移)

積極投資を続けながらも自己資本比率40.7% 資本コストを意識した健全な財務体質を維持

(単位:百万円)	24年3月期 単体実績	25年3月期 単体実績	26年3月期 連結実績	(単位:百万円)	24年3月期 単体実績	25年3月期 単体実績	26年3月期 連結実績
流動資産	813	938	1,344	流動負債	180	401	887
(内現預金)	(677)	(711)	(830)	固定負債	205	789	984
固定資産	195	1,210	1,940	負債合計	386	1,191	1,872
総資産	1,009	2,149	3,285	(内有利子負債)	(249)	(975)	(1,338)
				純資産	621	957	1,413
				BPS	30.87円	44.54円	63.65円
				自己資本 比率	61.30%	43.5%	40.7%

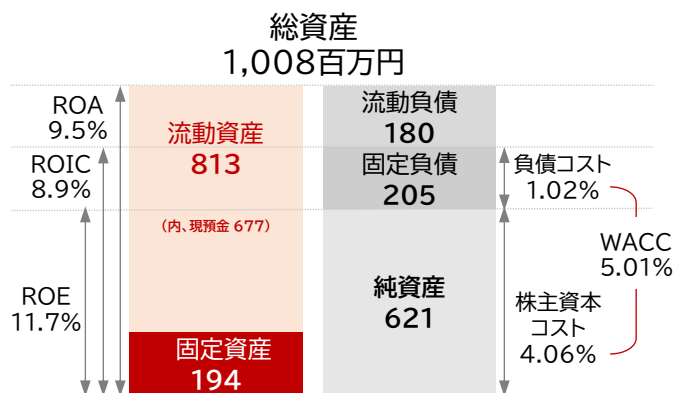
M&A実行により、のれん・顧客関連資産などの資産の部が約1,128百万円の増加、売掛金及び現預金は445百万円の増加。負債の部においては、資金調達の結果、有利子負債の362百万円が増加。純資産は前期末より452百万円の増加。

※ 顧客関連資産は既存顧客との継続的な取引関係により期待される収益力を表した資産科目となります。

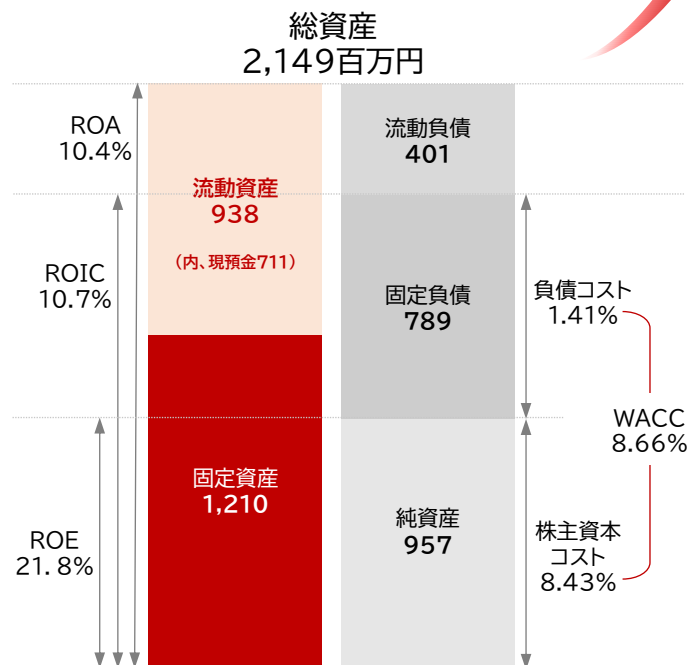
※ 2025年2月に1株→2株の、2026年1月に1株→3株の株式分割を行っています。BPS(1株あたり純資産)は2024年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

M&A推進および事業成長の結果、総資産、純資産ともに着実な財務基盤 資本コスト分析や財務規律を意識し、今後も健全な成長を継続

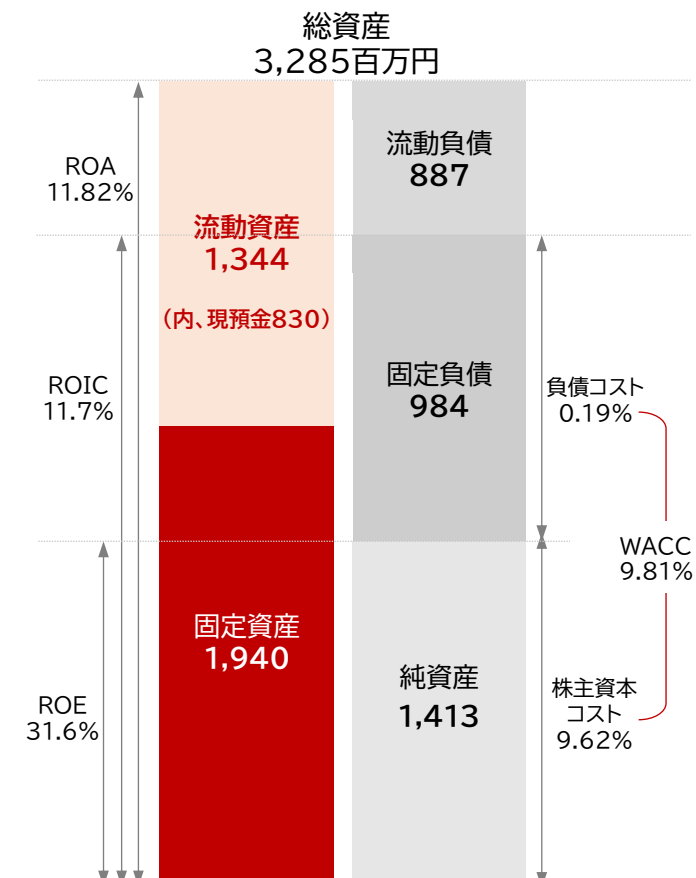
2024年3月期末 BS



2025年3月期末 BS



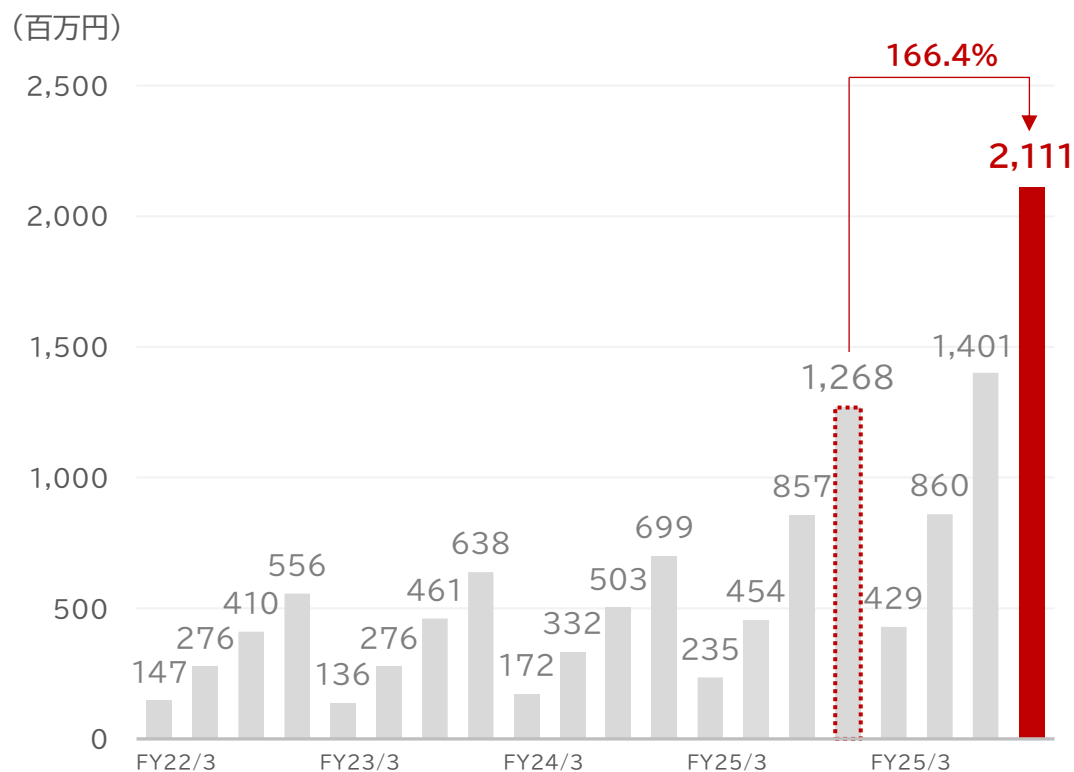
2026年3月期末 BS



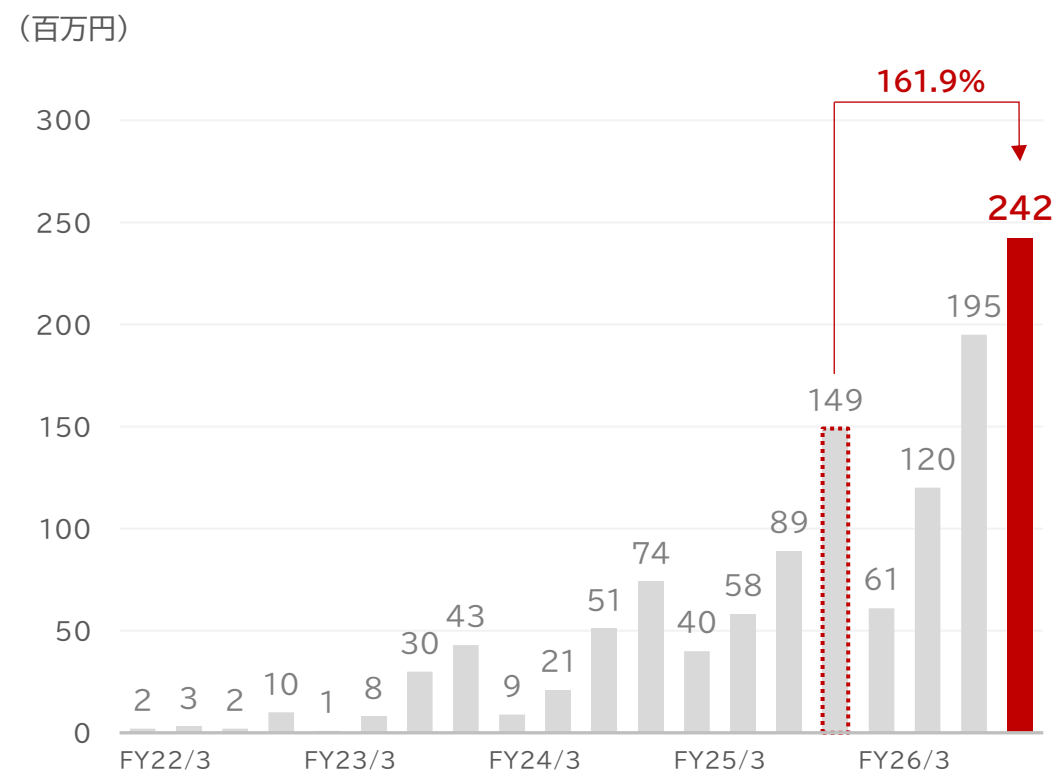
四半期別 業績推移(売上・営業利益)

通期の売上高対前期比率166.4%、営業利益対前期比率164.4%

売上高推移(四半期)



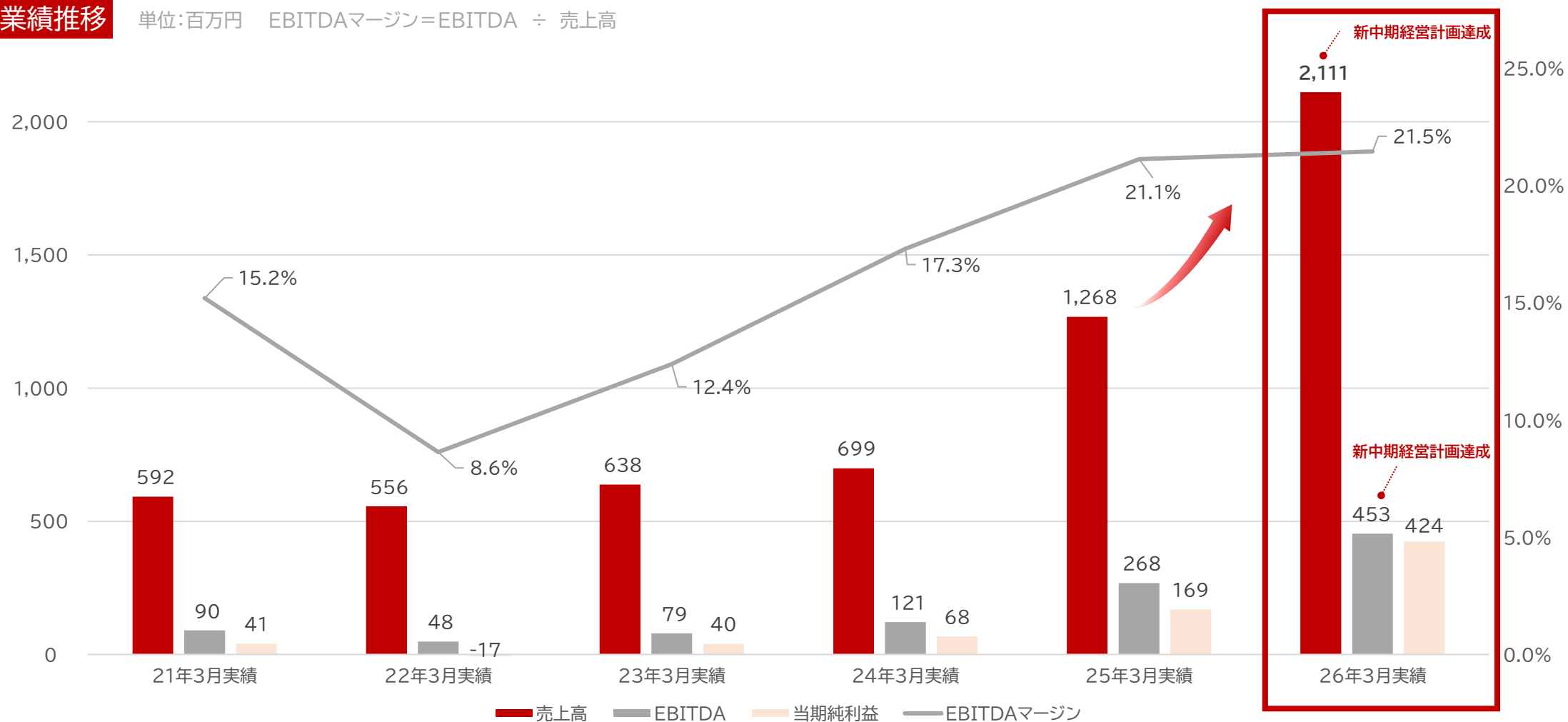
営業利益推移(四半期)



新中期経営計画の「事業・投資」の数値目標を達成

業績推移

単位:百万円 EBITDAマージン=EBITDA ÷ 売上高



2027年3月期 業績予想

- 1 2026年3月期 業績実績
- 2 2027年3月期 業績予想**
- 3 M&A戦略 DXロールアップの進捗
- 4 会社情報

2027年3月期も前期比で拡大を予想 引き続き積極的なM&Aで非連続的な成長を目指します

(単位:百万円)	2024年3月期 単体実績	2025年3月期 単体実績	2026年3月期 連結業績	2027年3月期 連結業績予想
売上高	699	1,268	2,111	3,599
調整後営業利益(EBITDA)	121	268	453	721
営業利益	74	149	242	472
経常利益	92	163	271	447
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	68	169	424	446
EPS	3.40円	8.21円	20.22円	21.26円
ROE	11.7%	21.8%	31.8%	28.6%

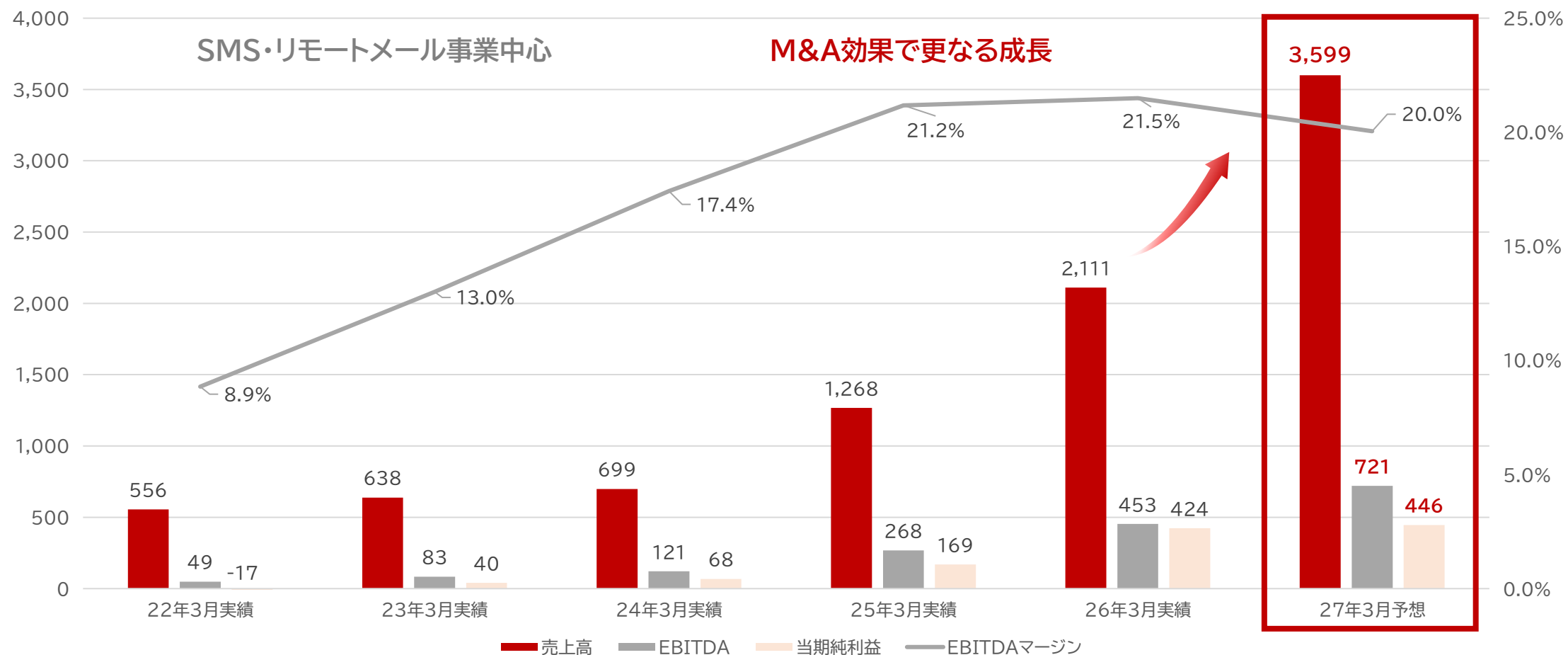
※ 調整後営業利益(EBITDA) = 営業利益 + のれん償却費 + 顧客関連資産償却費 + 減価償却費 + 株式報酬費用 ROE = 当期純利益 / 株主資本

損益計算書推移(売上高、EBITDA、当期純利益指標)

2026年3月期は売上高 対前期比率170%、EBITDA 対前期比率159%の予想

業績推移

単位:百万円 EBITDAマージン=EBITDA ÷ 売上高



M&A戦略 DXロールアップの進捗について

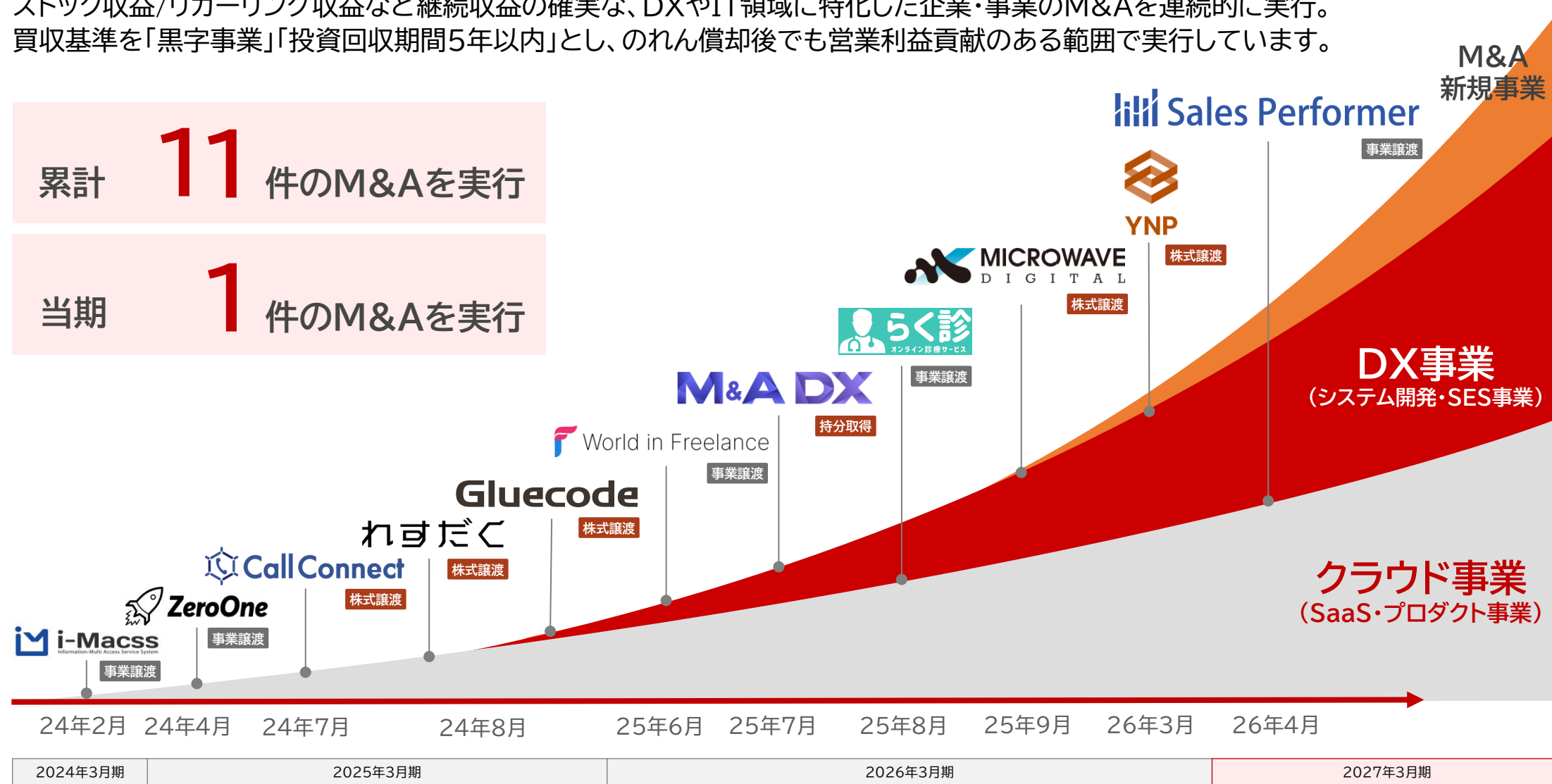
- 1 2026年3月期 業績実績
- 2 2027年3月期 業績予想
- 3 M&A戦略 DXロールアップの進捗
- 4 会社情報

M&A戦略 DXロールアップ

ストック収益/リカーリング収益など継続収益の確実な、DXやIT領域に特化した企業・事業のM&Aを連続的に実行。
買収基準を「黒字事業」「投資回収期間5年以内」とし、のれん償却後でも営業利益貢献のある範囲で実行しています。

累計 **11** 件のM&Aを実行

当期 **1** 件のM&Aを実行



M&Aのトラックレコード

	企業・事業	事業概要	取引形態	時期	買収規模	売上規模	EBITDA	エンジニア数	セグメント
1	i-Macss 	SMS配信	事業譲受	24年 2月	15百万円	約58百万円	約7百万円	--	クラウド ソリューション
2	ゼロワン 	ノーコード業 務SaaS	事業譲受	24年 4月	41百万円	約100百万円	約10百万円	1名	DX ソリューション
3	合同会社selfree 	クラウド 電話SaaS	持分 100%	24年 7月	450百万円	約200百万円	約89百万円	2名	クラウド ソリューション
4	グルーコード コミュニケーションズ 株式会社 	DX エンジニア 派遣	株式 100%	24年 8月	600百万円	約400百万円	約70百万円	40名	DX ソリューション
5	株式会社 イー・クラウドサービス 	飲食向け クラウド サービス	株式 100%	24年 8月	50百万円	約120百万円	約11百万円	5名	クラウド ソリューション
6	ワールドインフリーランス 	SES事業	事業譲受	25年 6月	62百万円	約346百万円	約14百万円	30名	DX ソリューション
7	株式会社M&A DX 	M&A 仲介事業	株式 20%	25年 7月	非開示	非開示	非開示	--	--
8	らく診 	オンライン 診断	事業譲受	25年 8月	非開示	非開示	非開示	--	クラウド ソリューション
9	株式会社マイクロ ウェーブデジタル 	システム 開発	株式 100%	25年 12月	非開示	非開示	非開示	56名	DX ソリューション
10	株式会社YNP 	SES事業	株式 100%	26年 3月	253百万円	約975百万円	約93百万円	141名	DX ソリューション
11	セールスパフォーマー 	クラウド 営業可視化 SaaS	事業譲受	26年 4月	340百万円	約227百万円	約136百万円	--	クラウド ソリューション

M&A戦略の方針【DXロールアップ】

ストック型・リカーリング型のITビジネスを中心にDXロールアップを継続

M&A対象案件	投資規模	業績規模
<p style="text-align: center;">新中期経営計画</p> <p>【注力領域】 DXロールアップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AIコンサルティング、AIソリューション、AI受託開発 ・ 上流 DX・ITコンサルティング ・ DX・ソフトウェア開発関連(SES / オフショア) ・ SaaS事業(AI、HR、会計、フード、リーガル、通信、その他) ・ BPaaS BPO系(会計、インフラ、セールス、コールセンター) <p>【模索領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メディア事業(動画 / プラットフォーム) ・ eコマース / ゲーム / スマートフォンホアプリ 	<p style="text-align: center;">~20億円</p> <p style="text-align: center;">※EBITDA倍率5倍以内を目安</p>	<p>売上規模 ~ 30億円前後</p> <p>利益規模 ~ 5億円前後</p> <p style="text-align: center;">※黒字であること</p>

※M&Aは不適當合併等(実質的存続性を喪失する合併等)に該当しない事等を前提に、順次規模を拡大しながら実行してまいります。

M&A戦略についてはこちらのページをあわせてご参照ください: <https://www.fonfun.co.jp/ma/>

会社情報

- 1 26年3月期 業績実績
- 2 27年3月期 業績予想
- 3 M&A戦略 DXロールアップの進捗
- 4 会社情報**

ミッション

テクノロジーで社会をもっとスマートに。

わたしたちは技術の力でより効率的で合理的な社会の実現を目指します。

会社概要



会社名	株式会社fonfun(フォンファン 英語表記 fonfun corporation)			
代表者	代表取締役社長 水口 翼			
資本金	10,000千円 (2026年3月31日現在)			
上場取引所	東京証券取引所 スタンダード市場 証券コード2323			
役員構成	取締役	八田 修三	常勤監査役	鎌形 尚
	取締役	松井 都	監査役	高森 厚太郎
	社外取締役	緒方 健介	監査役	蓮尾 倫弘
	社外取締役	小柳 肇		
	社外取締役	古久保 武紀		
所在地	東京都渋谷区笹塚2-1-6 JMFビル笹塚01 6階			
設立	1997年3月3日			
従業員数	連結280名 / 単独123名 (2026年3月31日現在)			
事業内容	DXソリューション事業(ソフトウェア開発、技術派遣事業)、クラウドソリューション事業(SaaS・プロダクト事業)			

X(旧Twitter) 公式アカウント

fonfun公式アカウントを運用しています。IRや事業の情報を配信しています。ご興味のある方はフォローお願いします。



@fonfun2323

会社沿革



1997年	東京都新宿区にネットビレッジ株式会社を資本金3億円で設立 日本高速通信株式会社(現 KDDI)と業務提携	2012年	株式会社FunFusionを完全子会社化
1998年	本店を東京都新宿区から東京都八王子市に移転 通産省(現 経済産業省)より特定新規事業認定取得	2014年	本店を東京都杉並区から東京都渋谷区に移転 株式会社e-エントリーの全株式を取得し子会社化
1999年	東京都より中小企業創造法に基づく認定取得 NTTドコモ「iモード」向けに「リモートメール」サービス開始 IDO(現 KDDI)「Ezaccess」対応サービス開始	2015年	株式会社アドバンティブ(当社連結子会社)を設立
2000年	「リモートメール」事業海外展開のため、香港現地法人、米国現地法人を設立 DDIグループ(現 KDDI)「EZweb」対応サービス開始	2018年	株式会社ミスターフュージョンよりメディア事業を譲受 株式会社e-エントリーの全株式売却
2001年	「リモートメール法人サービス」提供開始	2019年	株式会社武蔵野よりISP事業、ボイスメール事業を譲受 株式会社アドバンティブの全株式売却
2002年	大阪証券取引所ナスダック・ジャパン(現東京証券取引所スタンダード市場)に上場(証券コード:2323)	2020年	資本金を1億円に減資
2003年	ボーダフォン(現 ソフトバンク)「Vodafone!」対応サービス開始	2022年	株式会社ソリッド・ネットに資本参加 東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東証スタンダード市場に移行 ケイビーカンパニー株式会社よりSMS事業を譲受
2004年	中国現地法人「上海網村信息技术有限公司」(当社連結子会社)を設立 本店を東京都八王子市から東京都新宿区に移転	経営体制変更	株式会社FunFusionを吸収合併 TOBによりサイブリッジ合同会社の子会社となる 代表取締役社長に水口 翼が就任
2005年	本店を東京都新宿区から東京都渋谷区に移転 NVソフト株式会社(当社連結子会社)を設立 株式交換により株式会社ウォーターワンテレマーケティング、株式会社エンコード・ジャパン、株式会社グローバル・コミュニケーション・インクを完全子会社化	2023年	新中期経営計画「プロジェクトフェニックス」を発表 代表取締役・取締役に時価総額・営業利益目標の行使条件付き有償SOを発行 SMS事業のブランド名称を「バンソウSMS」に変更 株式会社クロノスよりSMS送信事業を譲受
2006年	中国現地法人「合肥網村信息技术有限公司」(当社連結子会社)を設立 株式会社エンコード・ジャパンを吸収合併 ネットビレッジ株式会社から株式会社fonfunへ社名変更	2024年	株式会社ゼロワンよりノーコード業務アプリ開発SaaS事業を譲受 合同会社selfreeを完全子会社化 グルーコードコミュニケーションズ株式会社を完全子会社化 株式会社イー・クラウドサービスを完全子会社化(2024年9月本体へ吸収合併) 資本金を1.74億円に増資
2009年	本店を東京都渋谷区から東京都杉並区に移転 光通信グループとの合併会社 株式会社FunFusionを設立	2025年	1株につき2株の割合で株式分割 資本金を10,000千円に減資 インバウンドテクノロジー株式会社よりSES事業(ITフリーランスマッチング)を譲受 株式会社M&A DXに資本参加 オンライン診療プラットフォームらく診 事業の開始 株式会社マイクロウェブデジタルを完全子会社化(2026年3月本体へ吸収合併)
2011年	「リモートメール」スマートフォン向けにサービスを提供開始	2026年	1株につき3株の割合で株式分割 株式会社YNPを完全子会社化 営業支援SaaS「セールスパフォーマー」を事業譲受

Q 新中期経営計画(プロジェクトフェニックス)は、達成できますか？

M&A 累計11件実施

A 既存事業の安定成長に加え、新規事業、並びにM&Aを通じて非連続な成長を図り、達成を目指します。

Q 東証スタンダード市場の上場維持基準に満たない状況になったらどうなりますか？

26年1月30日達成

A 上場維持基準の達成は当社にとっての必達目標であります。時価総額100億円に向けて株価を意識した経営を実行いたします。株価推移や流通株式時価総額の状況を踏まえ、必要な場合には引き続き当社株式の流通が可能な他の取引所への重複上場を検討します。

Q 株主還元策(配当政策)についてはどのように考えていますか？

A 2025年1月21日付、配当政策の変更し、事業規模の拡大や収益力強化に向けた投資を優先する方針とさせていただきました。しかしながら、利益を積み重ね、分配可能額を確保できる見込みとなったこと、並びに長く当社を見守っていただいている株主の皆様へ還元することを目的に、**2025年3月期末に記念配当の実施**をしました。また自己株式の消却についても検討します。

創業来初配当

Q 単元未満株の株主が多いようですが、なぜでしょうか？

買収継続推進中

A 過去の株式併合の影響により単元未満株主が多い状況です。多くの株主が議決権行使可能となるよう**買収推進**や**株式分割**も検討します。

Q 国際会計基準(IFRS)への移行を考えていますか？

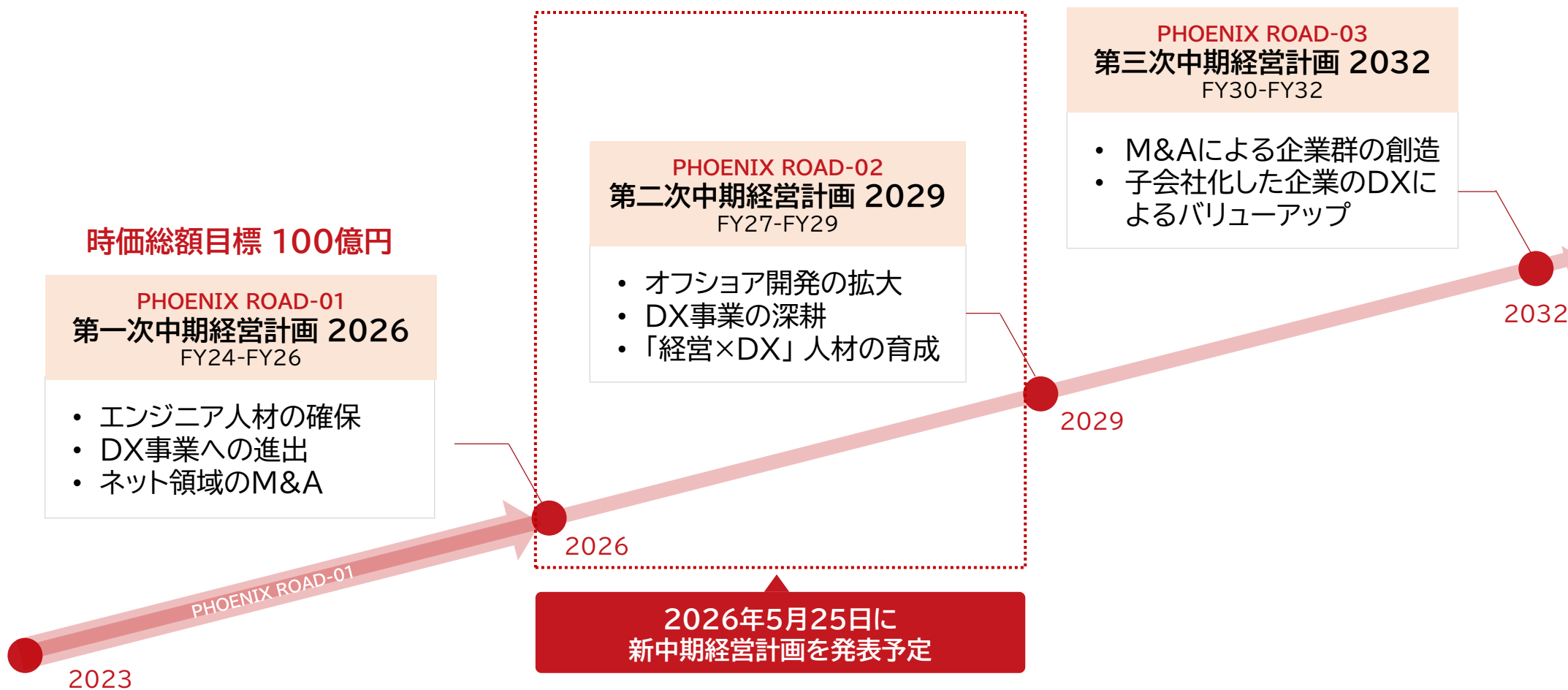
分割を2度実施

A 現時点では、国内投資家中心の株主構成である状況や、M&Aや経理・開示実務の機動性を担保することを考慮し、当面は、日本会計基準の採用を続ける予定です。

Q 新中期経営計画の「プロジェクトフェニックス」の由来は？

A 当社の社名fonfunの由来のひとつが「鳳凰」の中国語読みです。英訳するとフェニックスでありプロジェクト名として採用しました。

自社のコアコンピタンスを「DX」と定義し 「DX」による付加価値最大化を実行可能な企業集団を目指す



オンライン決算説明会を実施します(5/25 月曜日 18:00予定)

2026年5月15日開示の2026年3月期通期決算概要についてご説明します。



The banner features the fonfun logo and stock code on the left, and event details on the right. The event is titled '2026年3月期 通期 決算説明会' (2026 Fiscal Year 3rd Quarter Consolidated Financial Statement Presentation) and is scheduled for '2026年 5月25日(月) 18:00~' (Monday, May 25, 2026, 18:00~). It is an 'オンライン開催' (Online event). The speaker is identified as '代表取締役社長 水口 翼' (President and Representative Director, Takanori Mizukuchi), shown in a circular portrait.

<https://www.fonfun.co.jp/ir/presentation/>

1 X(旧Twitter) 公式アカウント @fonfun2323

リモートメールのお知らせアカウントとして利用していたXアカウントをfonfun公式アカウントとして運用しております。IRや事業のお知らせなどをお届けします。



2 IR用のnoteアカウントを開設、note IRマガジン

IRや事業のお知らせなどをお届けします。

<https://note.com/fonfun2323>



3 次回の決算開示は2026年8月上旬予定です

第1四半期決算を開示予定です。

Phoenix, fly high!



株主と共に飛躍する銘柄へ

【注意事項】本資料における、将来の予想については、当社が把握しうるかぎりの情報をもとにしておりますが、今後の環境の変化等により、予想と異なる結果になることがあります。本資料をもとに意思決定を行った結果について、当社は一切の責任を負いません。ご了承ください。